

平成28年度 南アルプス市立若草南小学校学校関係者評価書

平成28年9月9日（金）
学校関係者評価委員会作成

第2回学校関係者評価委員会

実施日：平成28年9月9日（金）午後12時50分～

場 所：若草南小学校校長室

参加者：学校関係者評価委員・教職員

神山 栄和（藤田区自治会長、学校評議員）

春澤 良人（浅原区自治会長、学校評議員）

金丸 浩恵（主任児童委員、学校評議員）

倉崎 正行（PTA 会長、学校評議員）

市川 慎（PTA 副会長、学校評議員）

柴田 肇（市教委総務課長、学校評議員）

市川 利仁（校長）

加賀美 敏（教頭）

石川 和樹（教務主任）

1 学校側から提案の内容

- ①学校関係者評価の趣旨
- ②本年度の学校経営方針並びに現状
- ③学校評価の方法について
- ④評価の全体的な傾向について
- ⑤児童アンケートの内容と結果について
- ⑥保護者アンケートの内容と結果について
- ⑦教職員自己評価シートの内容と結果について
- ⑧まとめ…学校評価から見られる成果や課題，ならびに改善策について

2 協議された主な内容

- ①学校自己評価についての全体評価について
- ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について
- ③今後の改善策について

《学校関係者評価書》

I 全体評価

全校児童のアンケートの集計結果は昨年度と比較すると、多くの項目でプラス評価の傾向にある。また、教職員の自己評価の集計結果も肯定的評価がほとんどで若草南小学校の教育活動が効果的に進められていると言える。

II 学校関係者評価委員会が出された主な意見

○児童の朝ごはんについて

- ・ほとんどの子は朝食を食べてくるが、朝食を食べてこない（食べない）子がいるのが気になる。学校生活ではどうか？
- ・朝食を食べないと授業にも集中して取り組めず、上手な一日のスタートを切ることができ

ない。

- ・朝食の中身も問題である。栄養バランスのとれた食事をするのが大切である。
- ・母親が忙しくて、しっかり家庭教育ができていない家庭が多いのではないか。
- ・早寝、早起き、朝ごはんは子どもにとってとても大切な習慣である。
- 自主学習ノート（学びノート）について
 - ・学びノートの取組が良い。自主学習のやり方や振り返りの仕方が書いてあって家庭で指導する際にもわかりやすい。この習慣が根付くと学力向上の面でとても良いと思う。6年生ではかなり自主学習に取り組む習慣ができていますので、今後に期待したい。
- ケータイ・スマホの保持率が高いことが気になる。
 - ・PTAでもケータイ・スマホの学習会を保護者と高学年生を対象に行ったが、多くの家庭が、そのような学習会にもっと参加して、危険について認識してほしい。また、正しい使い方について家族でしっかりルールを決めるのが大切である。
- 不登校や遅刻者について
 - ・不登校傾向の児童が数名いるが、昨年度よりも改善してきている。
- 英語教育や情報教育などの学校教育について
 - ・これからは社会のグローバル化や多民族化が予想される。その中でコミュニケーションツールとして英語は大切になってくると思う。また、ICT化に伴いプログラミング教育も話題になっているが、大切なことは、ものを考える力である。学校教育全体を通して自分で考え、判断する力をつけていきたい。
 - ・先生方の体験や経験をどんどん子どもたちに伝えてほしい。
 - ・エンカウンターなどの取組はどんどんやっていただきたい。
- 地域でのあいさつについて
 - ・夏休みに児童館で小さい子への読み聞かせの取組を行った。多くの小学生が参加してくれたが、いろんな人と関わってとても生き生きとしていた。地域での交流をもっと深めていけば、地域でのあいさつも活発になると思う。
- 「見守りたすき」について
 - ・地区でも見守りたすきをかけてパトロールをしてくれる人が増えてきている。
 - ・児童の安全・安心のために「見守りたすき」を広め、保護者・地域の方々がたすきをかけている姿が多くみられるように更にネットワーク作りをしてほしい。
- 学校の様子を地域に伝える
 - ・あいさつ運動をはじめ学校で取り組んでいることを地域にも知ってもらうために、学校だよりやバザーのお知らせ、リサイクル活動などを各地区の組回覧で回す。（藤田区80部・浅原区40部）そうすることによって、あいさつ運動の地域への拡大や学校ボランティアの拡充等につながっていく。

III 今後の改善策・重点課題について

- 校内研究を中心にして、子どもが主体的に学ぶように授業改善をしていく。
 - ・基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。
 - ・家庭と連携して学習習慣の定着化に力を入れる。
- 地域や家庭との連携を深めて、児童の安全確保に力を入れていく。
 - ・地域や保護者と連携しての見守りたすき運動の更なる拡大を図る。
 - ・PTAによる登校・安全指導の導入をする。